

## 6月6日「それについてはまた」使徒言行録17：22～34

パウロは旅人でした。彼が生涯で旅行した距離は16000キロとも言われています。青森から鹿児島までが2000キロ。アメリカを横断しても6000キロです。ものすごい距離だと言うのが分かります。もちろん移動手段は基本は徒歩、もしくは船でした。イエスがガリラヤなどいわゆる地方を中心に宣教して回ったのに対して、パウロは都市派でした。ローマ帝国の大都市から大都市へと渡り歩き、その町のユダヤ人の会堂へ行ってはイエスについて語ります。そもそもパウロ自身がキリキヤのタルソという大都市出身で当時の共通語ギリシャ語を使いこなすインテリだったのです。今よりもずっと治安も悪く不便な時代です。時に強盗にあったり、犯罪者と勘違いされ、牢屋に入れられたり、船が遭難したり、大変な旅でした。また、パウロの宣教は上手くいくときばかりではありませんでした。それどころか、宣教を拒否されたり、恨みを買って殺されそうになったことの方が、多かったようです。

今日は、そんなパウロがアテネを訪ねた物語を聴きました。アテネのことはご存じだと思います。ギリシャの首都で、民主主義の発祥の地とも言われ、神殿や議会、多くの歴史的建造物が立ち並ぶ町です。パウロが訪ねた当時はローマに覇権を奪われ、人口は5000人くらいに減っていたようですが、それでもギリシャ文化の中心地でした。エピクロス派、ストア派、哲学者たちが拠点を構えて毎日議論し合い、学問や芸術の中心で、教養があって、流行に敏感な人たちが暮らすオシャレな街、それがアテネだったのです。

そんな街でパウロはイエスについて語り伝えます。流行に敏感な人々ですから、「このおしゃべりは何を言いたいのだろうか」とか「彼は外国の神々を宣伝する者らしい」と興味をもって「アレオパゴスの丘」へとパウロを連れていき、話を聴くことにしました。そこは、かつてギリシャの貴族議会があった丘で、歴史的な名所です。日本の国会議事堂みたいな感じでしょうか。パウロは有名な舞台に立って、イエスのことを大胆に証する機会が与えられたということです。

パウロはそこで一生懸命語りました。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見てみると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。(中略)すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。」

パウロは何とかアテネの人々に聴いてもらおうと語りました。アテネの道端で見つけた「知られざる神に」という祭壇。その方こそ私たちに命と息と、すべてを与えてくださった唯一の神だということ。さらにパウロは工夫しました。「皆さんのうちのある詩人たちも、／『我らは神の中に生き、動き、存在する』／『我らもその子孫である』と、／言っているとおりです。」当時、ギリシャで流行していた詩人の言葉を取り入れて、ギリシャ人にはギ

リシャ人に通じるように、一生懸命神さまについて伝えようとしたのです。そして最後に、私たちの救いの核心、イエス・キリストについて語ります。「それは、先にお選びになった一人の方によって、この世を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになったのです。」この説教、説教の授業だったとしたら何点くらいなのでしょう？熱意も、工夫も、そして、福音もおおよそ説教で教えられることはすべて含まれています。パウロは大舞台上で一生懸命に語ったのです・・・それでも、聴衆の反応は、期待したようなものではありませんでした。32節「死者の復活ということを聞くと、ある者はあざ笑い、ある者は、『それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう』と言った。」ガックリ\_ | \_ | ○ですね。

『それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう』この言葉や態度に今まで何人のクリスチャンが傷ついて、心折られてきたことでしょうか？イエス様は素晴らしい、そう伝えたのに、伝わらないもどかしさ・・・私も、キリスト教主義学校の集会、YMCAの職員の集まり、大勢の人が聴く大舞台上で語った経験がありますが、居眠りを受けたり、お隣の人とのコソコソ話に負けたり、心折られる反応を受けたことがあります。アテネという多神教的な世界観での聴衆の反応は日本でキリスト教を伝える難しさと重なる部分があります。教会はそんな中何をしてきたのでしょうか・・・クリスマスやイースターをイベント化し、礼拝堂をバザーやコンサートの会場にしてきました。受け入れやすく、耳馴染みの良い言葉（仕掛け）を用意することに躍起になってきましたが、いつの間にか伝道とは、そうやって人を呼び集める大規模イベントを指すようになってしまった。それで良いのでしょうか？パウロももちろん現地の人たちの文化を受け入れ、対話しようと試みていますので、多少の工夫は良いでしょう。たとえば子どもたちに向けては優しい言葉で語り、たとえば若い世代に向けてはインターネットで発信すること、相手に通じる言葉や文化で語りとうるのはとても大切なことだろうと思います。イベントもたまには良いかもしれない。でも、そこに本物が無ければ、本質が無ければ、意味はないのです。

「すべてのアテネ人やそこに在留する外国人は、何か新しいことを話したり、聞いたりすることだけで、時を過ごしていた」今日、私は特にこの言葉が特に刺さりました。「～だけで、時を過ごしていた」アテネはおそらく当時の知識人や文化人が大勢いた街ですが、彼らが議論したり学ぼうとする姿を、ただの時間の浪費だと言わんばかり。ずいぶんと皮肉に満ちた表現です。けれども、これも今の私たちとずいぶん重なる気がします。今、私たちの脳内のほとんどはスマホで占められています。私もそうですが、スマホがないと落ち着かない。「何か情報を逃しているのではないか・・・」不安になります。そこから提供される目新しく刺激的な情報ばかりに振り回されて、本質を求める深い議論や、心の底からの共感を産むような親密な人間関係を築けなくなっている私たちです。私たち教会自体が、当たり障りのないふわりとした優しい言葉に慣れ過ぎて、我が身を裂かれる罪の赦しについての物語も、命の重みを知らされるイエスの愛の物語も語らずに、いや、語れずに来たのかもしれない。

そんな今日、私はこの言葉を一緒に聴きたいと思いました。「34節死者の復活ということを聞くと、ある者はあざ笑い、ある者は、『それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう』と言った。それでパウロはその場を立ち去った。しかし、彼について行って信仰に入った者も、何人かいた。」イエスの物語の核心「復活」を語ったパウロだったが大勢の人たちはあざ笑いながら消えてしまいます。でも何人かは残ったのです！何百人の中のたった数人であっても残った人はいたのです。

滋賀県のキリスト教主義の中学で1年間だけ授業を持ったことがありました。中学2年生、40人×5クラスの200人ほどに毎週授業を行います。初めての経験で、私自身、何を語れば良いか分からず、失敗ばかりでした。授業を聴いてもらえず怒った経験の方がずっと多いです。それでも1度だけ嬉しかったことがありました。宿題で長期休みに教会に行ってみよう！と課題を出しました。「神戸のウチの教会に来たい人は来てもいいよ！」と言いました。滋賀から神戸にくる子はまずいないだろうと思ってです。けれどもたった1人だけ、お母さんに頼み込んで、礼拝に出席してくれた生徒がいたのです！200分の1、でもこの一人の生徒は私にとっては本当に嬉しい1人でした。

保育園で毎月教会からのお便りを出します。今月の聖句についての短い説教です。100家庭ほどに配りますが「どうせ大して読まれないんだろうな」と思っています。年に1度くらい「先生のこないだのお話しとても良かったです」と言われることがあります。一生懸命語り続ければ（書き続ければ）聴いてくれている人（読んでくれる人）はいるものだなと思わされます。

多分イエスの福音は簡単には伝わりません。でも、全く伝わらないわけではない。200分の1、100分の1であっても伝わる可能性はある。そのためには私たちは恐れず、本当に大切なものを語らなければならない。神さまは私たちを愛しておられる。いつもそばにいてくださる。そして十字架につけられて、死んだ後に復活なさったのだ！この最も大切な部分を語り続けることが、私たちが一番しなければならないことなのだろう！コロナ禍にあって、一緒に礼拝に集まれない中、皆さんの礼拝への渴望がよく分かりました。本当に牧師冥利に尽きます。教会の本質は礼拝だ、と改めて思わされています。高齢化、コロナ禍、色々な不安があるが、私たちが本質を見誤らなければ、きっと伝わって広がっていくはずです！さあ、恐れず語り続けていきましょう。

とりなしの祈り

恵みに富む主なる神様、今日私たちを各家庭礼拝へと招いてくださったことを感謝します。私たちを顔を合わせなくとも、愛する神の家族としてくださっていることを感謝します。一人一人が教会に連なる主の体として、互いに覚えあって、歩んでいくことが出来るようにしてください。

哀れみ深い神様、私たちは時に恐れに取りつかれます。他者に嫌われることを恐れ、失敗することを恐れ、自らの殻に閉じこもり、孤独へと走ろうとするときがあります。どうか、私たちの弱さと罪をお許してください。あなたのみ言葉で清めてください。孤独になることから、人を愛する者へと変えられますように。黙る者から、福音を語り伝える者へと変えられますように、あなたが聖霊を送ってください。

聖なる愛であるイエス様、今、困難の中にある人を覚えます。病気の方、高齢の方、貧しさ、飢えの中にある方、暴力や差別を受けている方、孤独な方、すべての人にあなたが救いの御手を差し伸べてください。私たちをあなたから遣わされた者として遣わしてください。

子どもたちを招かれるイエス様、すべての子どもたちがあなたの愛を知って喜びをもって歩めますように。特に愛光保育園と子どもの教会に集まる子どもたちの上にあなたの守りと祝福がありますように。職員・スタッフの働きを助けてください。

私たちの心を燃え立たせる聖霊、私たちの今週1週間の歩みを共にいてお導きください。今週も神を愛し、人を愛し、神に仕え、人に仕える歩みが出来ますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン